



株式会社 免疫生物研究所

大証ヘラクレス上場 証券コード:4570

平成22年3月期 (第28期) 第2四半期 決算説明会

「抗体」を通じて、世界で難病に苦しむ人々が、
1日も早く、病気を克服し、明るく豊かな暮らしを営めるよう
社会に貢献いたします。

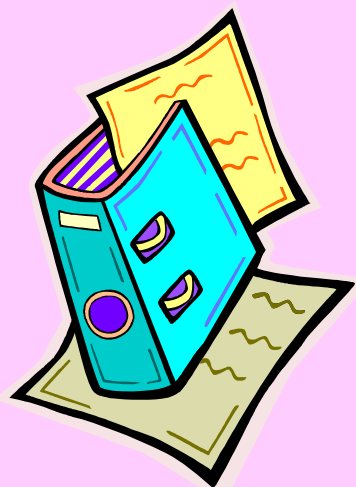


平成21年 11月 17日(火)



決算概要・経営方針

平成22年3月期 (第28期)
第2四半期



1. 決算内容について



平成22年3月期(第28期) 第2四半期決算実績

単位:百万円	H21年3月期 第2四半期 (第27期)	H22年3月期 第2四半期 (第28期)	前期比増減	主な要因	H22年3月 期末 (修正計画)
売上高	525	448	▲ 77 ▲ 14.7%	・試薬関連受託サービス減 ・疾患モデル動物受注減 ・BSE体外診断用医薬品受注増	1,030
売上原価	262	245	▲ 16 ▲ 6.4%	・売上減少に伴う	
売上総利益	262	202	▲ 60 ▲ 23.0%		
販管費	454	376	▲ 78 ▲ 17.3%	・人件費カット ・研究開発費減	
営業利益	▲ 191	▲ 173	18 -	・売上減少 ・販管費削減	▲ 190
経常利益	▲ 196	▲ 171	24 -		▲ 195
純利益	▲ 205	▲ 171	34 -		▲ 215



貸借対照表の概要

(単位:百万円)		平成21年3月期 期末		平成22年3月期 第2四半期		
			構成比		構成比	増減
	流動資産	799	30.6 %	593	24.7 %	▲ 205
	固定資産	1,812	69.4 %	1,811	75.3 %	▲ 1
	資産合計	2,611	100.0 %	2,404	100.0 %	▲ 206
	流動負債	155	6.0 %	136	5.7 %	▲ 19
	固定負債	70	2.7 %	59	2.5 %	▲ 11
	負債合計	226	8.7 %	196	8.2 %	▲ 30
純資産合計		2,385	91.3 %	2,208	91.8 %	▲ 176
負債純資産合計		2,611	100.0 %	2,404	100.0 %	▲ 206



キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位: 百万円)		平成21年3月期 第2四半期	平成22年3月期 第2四半期	増減
	営業活動によるキャッシュ・フロー	161	▲ 80	▲ 242
	投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 140	▲ 67	72
フリー・キャッシュ・フロー		21	▲ 147	▲ 169
財務活動によるキャッシュ・フロー		▲ 10	▲ 10	0
現金及び現金同等物の増減額 (▲ は減少)		8	▲ 158	▲ 167
現金及び現金同等物の 第2四半期残高		509	136	▲ 372

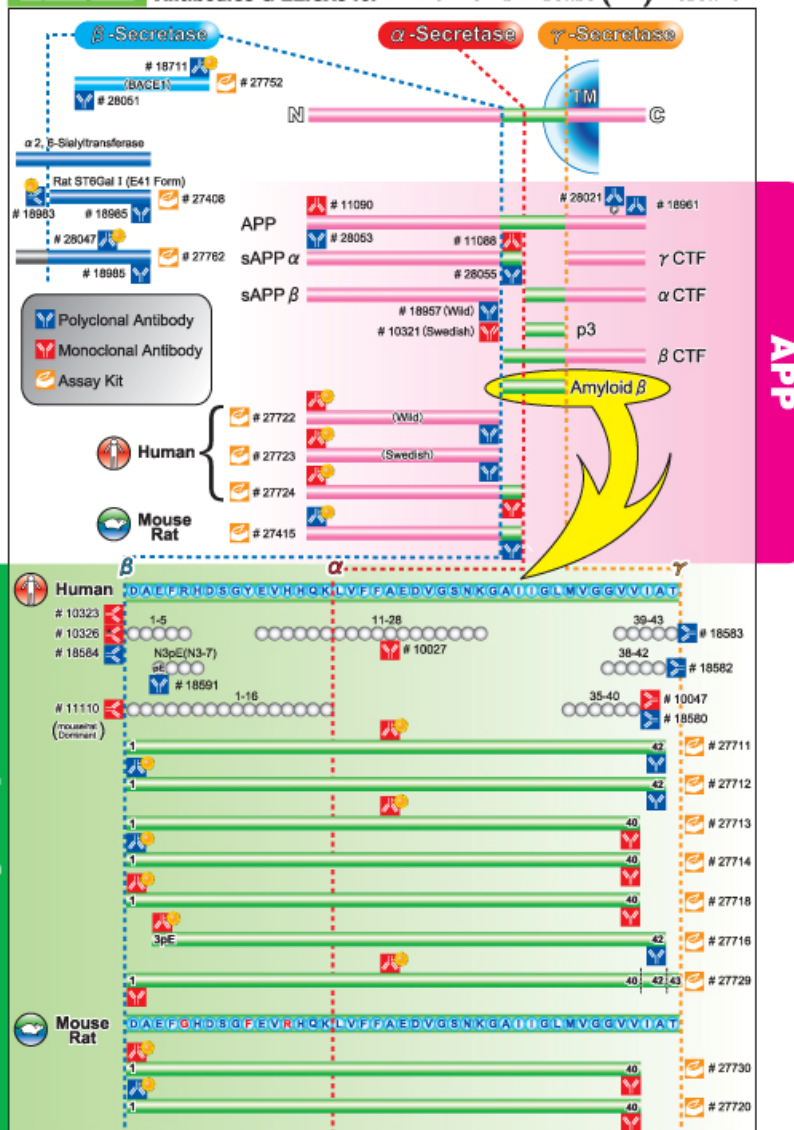


平成22年3月期(第28期) 第2四半期 事業別実績

(単位: 千円)		H21年3月期(第27期) 第2四半期	H22年3月期(第28期) 第2四半期
研究用試薬関連事業		287,040	238,517
	抗体関連試薬販売	146,789	140,010
	その他の試薬販売	36,221	29,309
	試薬関連受託サービス	104,029	69,196
実験動物関連事業		185,080	146,064
	疾患モデル動物販売	181,795	144,517
	疾患モデル動物関連受託サービス	350	835
	飼育・保管等サービス	2,935	712
医薬関連事業		50,423	62,611
	医薬シーズライセンス	—	—
	体外診断用医薬品販売	50,423	62,611
その他事業		2,865	917
合計		525,410	448,110



IBL Antibodies & ELISAs for Alzheimer's Disease (AD) Research



NEDOの成果

アルツハイマー病総合診断体系
実用化プロジェクト:

根本治療の実現に向けて
(2007-2011)

■ Amyloid β (N3pE-40) ELISA
Kitの製品化

目標:

「アルツハイマー病の研究試薬」と
いえば「IBL」といわれるようになる

トピックス2

■ トランスジェニックカイコによるタンパク質製造技術開発

- (株)ネオシルクの株式取得(子会社化)
- 群馬県との遺伝子組換え蚕育成に関する共同研究開始

TGカイコ繭生産系の特徴と利点

- ✓ 混入するタンパク質の種類が少なく、抽出、精製に有利。
- ✓ カイコはヒトの伝染病を媒介しない。
- ✓ 幼虫には桑葉が不可欠、成虫は飛行不能なので、封じ込めが容易。
- ✓ 組換えタンパク質抽出液は、カルタヘナ法に基づく取り扱いが不要。
- ✓ 動物由来の成分を含まない配合飼料による無菌飼育法。
- ✓ mgオーダーの組換えタンパク質を顕微注射後約80日で得られる。
- ✓ 短いライフサイクル(約45日)で、スケールアップが容易。
- ✓ g-kgスケールに対応可能。



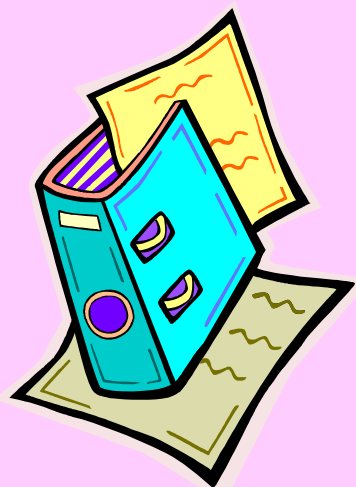
トピックス3

- アステラス製薬と財団法人化学及血清療法研究所は、抗オステオポンチン中和抗体(2K1)について、関節リウマチ治療薬としての開発を中止
 - 今後については、アステラス製薬にて他の適応症への応用について検討中
 - 2006年3月に締結したアステラス製薬との契約において、臨床試験、申請時、承認時に応じて、予定していたマイルストーン契約料が発生しない



中期経営計画

平成22年3月期 (第28期)
第2四半期



2. 経営方針について



主要な経営課題

安定した収益源の確保
〔既存事業の建て直し〕

①研究用試薬関連事業

- 企業合併に伴う販売先企業数が減少傾向である
- 大学・研究所などでは雇用人材の絞込みや研究案件の縮小
- 差別化の出来る自社開発の抗体や測定キット製品群の売上が増加の傾向にあり、今後さらに自社独自の新製品の開発を推進する

②実験動物関連事業

- 販売価格の見直し等による営業体制の強化と新製品にかかわる繁殖飼育などの疾患モデル動物受託を積極的に行う

③医薬関連事業

- 当社は(株)ニッピと共同で開発した、動物用体外診断用医薬品の牛海綿状脳症(BSE)の測定キットを(株)ニッピから製造委託を受け、供給
- 本製品は既存製品と比較して、安価かつ簡便に検査が出来、市場での評価が高く、来期は大幅増の受注を計画





主要な経営課題

安定した収益源の確保

〔新たな収益源パイプラインについて〕

①CCL8について

- 札幌医科大学との、骨髄移植に伴うGVHD(Graft-Versus-Host-Disease)の発症の診断や本病態のモニタリングに有効なケモカインの一種であるCCL8/MCP-2の測定キットを、診断薬に向けたライセンス契約締結に向けて交渉中。

②ガレクチン-3について

- ビージーメディシン社(本社:米国ウォルサム市)が現在行っている、新しい心不全の予測マーカーが体外診断用医薬品として全世界で上市されることで、新たな収入源となることが期待。

③新規タンパク質製造技術について

- TGカイコによる有用生理活性タンパク質の製造技術開発並びに販売を生理活性物質など研究用試薬から開始し、さらに体外診断用医薬品原料等へと展開する。
- 一方、群馬県蚕糸技術センターと共同研究により、ヒト化抗体開発を目指す。

④補助金について

- 現在、NEDO(独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構)プロジェクトに参画中。
- また新たな公的補助金の公募に積極的に取り組み、これまで構築してきた種々の大学・公的研究機関との連携体制を基に研究開発を進め、実用化を推進してまいります。





主要な経営課題

経営の効率化およびコスト削減

〔高崎本社と藤岡研究所との統合〕

- 高崎本社を藤岡研究所に統合する。
- 間接部門の合理化を図り、また経営・販売・製造の一体化を推進し、製品品質の向上および製品供給スピードの向上を目指す。

〔新システムの構築〕

- 平成22年度より新システムを稼働させる。
- システム環境整備を推進し、経営の合理化・信頼性を確保する。

〔研究開発課題の選択と集中〕

- 抗体医薬シーズに対する研究開発を藤岡研究所から三笠研究所に集約し、三笠研究所は疾患モデル動物の開発も含め研究開発の拠点とする。
- 抗体やELISAキットなどを中心とした研究用試薬関連の商品開発は藤岡研究所に集約する。





主要な経営課題

医薬シーズパイプライン

■ 年間に少なくとも1つの医薬シーズ開発目標

現状の医薬シーズパイプライン

〔アルツハイマー病関連抗体〕

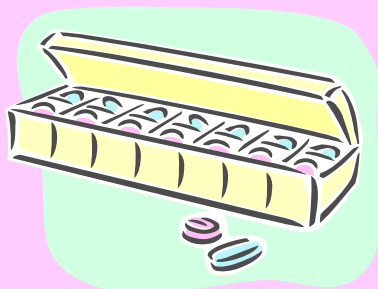
- アミロイドβタンパク質に対する抗体、コード名「82E1」について、米国 Intellect Neurosciences, Inc.とアルツハイマー型認知症治療薬としての独占的開発、製造および販売権を譲渡する契約を締結。開発の進捗に応じて契約金、製品発売後には一定率のロイヤリティーを受領する予定。
- また、新しい中和機能を有するアミロイドβタンパク質に対する抗体の開発を、共同研究先である大学および専門研究機関と共同開発中。

〔抗FGFR1(線維芽細胞増殖因子受容体)抗体〕

- 札幌医科大学第一内科と共同で、治療効果のある抗体と生理活性タンパク質とを組み合わせた新規肝がん治療法を開発中。

〔その他がん関連抗体〕

- がんのシグナル伝達に関わる受容体ターゲットを中心にして、上皮がん、中皮腫などの疾患に対する治療薬抗体の開発を進行中。





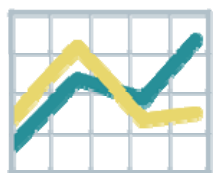
中期経営計画 (平成22年3月期-平成24年3月期)

	平成21年3月期 実績	平成22年3月期 見込	平成23年3月期 計画	平成24年3月期 計画
売上高	1,036	1,030	1,200	1,285
研究用試薬関連事業 計	563	550	605	645
(抗体関連試薬販売)	285	297	310	320
(その他の試薬販売)	75	66	105	135
(試薬関連受託サービス)	202	186	190	190
実験動物関連事業 計	359	343	355	400
(疾患モデル動物販売)	349	334	330	355
(疾患モデル動物関連受託サービス)	6	1	10	20
(飼育・保管等サービス)	3	9	15	25
医薬関連事業 計	109	135	235	235
(医薬シーズライセンス)	-	-	-	-
(体外診断用医薬品販売)	109	135	235	235
その他事業 計	3	2	5	5
原価・販売管理費	1,418	1,220	1,265	1,280
人件費	447	380	340	340
減価償却費	131	110	105	80
売上原価 (除く、人件費・償却)	436	430	525	550
その他販管費(除く、人件費・償却)	404	300	295	310
営業利益	△382	△190	△65	5
			営業C/F 黒字化を目指す	営業利益 黒字化を目指す

平成22年3月期 (第28期) 第2四半期総括

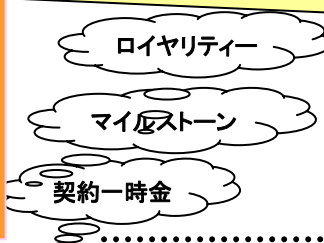
課題

- 急速な事業環境の変化に対応するための事業効率向上
- 効率の良い業務体制への組織改革



企業価値

不確定要素



■【医薬関連事業】

- アステラス製薬へ導出した抗オステオポンチン抗体の関節リウマチへの開発中止
- 経常的な導出を目指し、研究開発拠点を三笠研究所に集約

↑確定要素へ

■【実験動物関連事業】

- 経常的な新製品発売
- 三笠研究所での事業拡大（飼育、受託サービス）

■【その他事業】

- 安定収益構造の構築【その他事業】

確定要素

■【研究用試薬関連事業】

- 安定収益構造の構築（組織改革）
- 既存技術から生み出す新製品数の増大
- 既存の抗体、キットの診断薬への開発視野を拡大
- 新規生産技術（カイコ繭由来タンパク質、抗体等）開発の促進と製品化



注意事項

本発表において提供される資料ならびに情報は、当社経営陣が現時点において入手可能な情報によって判断したものであり、不確実である情報から得られた多くの仮定や考えによって作成されております。実際の成果は、さまざまな要素によって変化するため、業績見通し、開発見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。

実際の業績に影響を与える要素には、国内および国際的な経済情勢、業界ならびに市場の状況、金利および通貨為替の変動、新製品上市の遅延、導出先企業における開発の進捗の遅れ、技術的進歩、競合他社による特許の獲得、国内外の政府による法規制の変更などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。